



## 平成 28 年 9 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成 28 年 8 月 12 日

上場会社名 株式会社ユーグレナ 上場取引所 東  
 コード番号 2931 URL <http://www.euglena.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 出雲 充  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営戦略部長 (氏名) 永田 暁彦 (TEL) 03 (3454) 4907  
 四半期報告書提出予定日 平成 28 年 8 月 12 日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成 28 年 9 月期第 3 四半期の連結業績 (平成 27 年 10 月 1 日～平成 28 年 6 月 30 日)

#### (1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28 年 9 月期第 3 四半期	8,181	98.4	805	149.1	1,019	98.6	751	133.9
27 年 9 月期第 3 四半期	4,124	88.8	323	278.4	513	324.1	321	363.6

(注) 包括利益 28 年 9 月期第 3 四半期 717 百万円 (117.7%) 27 年 9 月期第 3 四半期 329 百万円 (432.2%)

	1 株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
28 年 9 月期第 3 四半期	9	14	8	99
27 年 9 月期第 3 四半期	4	02	3	88

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28 年 9 月期第 3 四半期	15,561		13,492		86.6	
27 年 9 月期	14,523		12,701		87.2	

(参考) 自己資本 28 年 9 月期第 3 四半期 13,473 百万円 27 年 9 月期 12,661 百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金					
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期 末	合 計	
	円	銭	円	銭	円	銭
27 年 9 月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0.00
28 年 9 月期	—	0.00	—	—	—	—
28 年 9 月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成 28 年 9 月期の連結業績予想 (平成 27 年 10 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1 株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通 期	11,100	87.4	760	59.6	1,000	37.7	736	56.7	8	93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 有

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、[添付資料]3 ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

28年9月期3Q	82,604,716株	27年9月期	82,043,216株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

28年9月期3Q	137,890株	27年9月期	137,890株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

28年9月期3Q	82,394,961株	27年9月期3Q	79,896,782株
----------	-------------	----------	-------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成27年10月1日～平成28年6月30日）におけるわが国の経済は、企業業績の改善、雇用情勢の改善がみられ景気は緩やかな回復基調で推移しておりますが、中国をはじめとする新興国の減速懸念と欧州の政治的混乱等もあり、依然として先行きが不透明な状況です。

当社グループの主力事業であるヘルスケア業界は、高齢社会の進展とともに、中高年齢層を中心とした健康維持・増進、美容・アンチエイジング、エイジングケアへの高い意識を背景に、特に通信販売を中心に市場規模を拡大しております。一方、参入企業の増加や低価格化により企業間の競争は厳しさを増しております。

このような事業環境のもと、当社グループでは、ヘルスケア製品の販売を積極的に推進するとともに、「ユーグレナ」を利用したバイオ燃料の開発、「ユーグレナ」の食品としての新機能性解明、低コスト化へ向けた「ユーグレナ」自体の改良技術に関する研究開発を行っております。

当第3四半期連結累計期間は、自社製品及びOEM製品の販売がそれぞれ順調に伸長し、売上高8,181,948千円（前年同期比98.4%増）となり、物流及び広告宣伝等の販売コストの効率化に努めた結果、営業利益は805,851千円（同149.1%増）、経常利益は1,019,675千円（同98.6%増）となりました。また、子会社が、当社株式を当社に現物配当したことにより繰延税金負債の取崩しが発生し、親会社株主に帰属する四半期純利益は751,804千円（同133.9%増）となりました。

なお、前第3四半期連結会計期間から当第3四半期連結会計期間までの各四半期の業績推移は以下の通りです。

	前第3四半期 連結会計期間	前第4四半期 連結会計期間	当第1四半期 連結会計期間	当第2四半期 連結会計期間	当第3四半期 連結会計期間
売上高（千円）	1,582,183	1,800,040	2,339,780	2,890,227	2,951,940
営業利益（千円）	134,469	152,820	30,904	423,381	351,565
経常利益（千円）	201,564	212,971	75,309	467,918	476,448

セグメント別の状況については、以下のとおりです。

(ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業の食品分野においては、前連結会計年度から継続して、高利益率の自社製品販売の強化を主目的とし、広告宣伝活動及び自社製品の販売体制の強化に努めております。また、大手食品メーカーと商品開発を実施し、コンビニエンスストア及び大手食品スーパーへの商品提供を行うことで「ユーグレナ」という食品素材をより身近なものとし、知名度を向上させる活動を継続しております。

ヘルスケア事業の化粧品分野においては、新たに男性用化粧品「B.C.A.D. HOMME」とスキンケアの新ブランド「ONE」を発売するなど、自社の化粧品ブランドの販売拡大に努めております。

ヘルスケア事業の海外展開においては中国上海市の上海悠緑那生物科技有限公司において、中国市場における「ユーグレナ」食品市場の創設に向けて主にOEM供給を中心に取引先の拡大に努めました。

ヘルスケア事業の研究開発においては、内閣府の「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」における研究開発課題「未利用藻類の高度利用を基盤とする培養型次世代水産業の創出に向けた研究開発」の研究開発活動に取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間においては、主要OEM取引先であった株式会社ユーグレナアート及び株式会社エボラを連結子会社化したことによる効果と、個人顧客が堅調に増加したことにより、売上高8,179,618千円（前年同期比98.7%増）となりました。また、グループ全体で物流及び広告宣伝等の販売コストの効率化に努め、セグメント利益は1,458,849千円（同79.7%増）となりました。

(エネルギー・環境事業)

エネルギー・環境事業においては、バイオジェット燃料開発を中心に研究開発活動を継続しており、内閣府の「革新的研究開発推進プログラム（ImPACT）」における研究開発プログラム「セレンディピティの計画的創出による新価値創造」、国土交通省の「下水道革新的技術実証事業（B-DASHプロジェクト）」の委託事業に係る研究開発を行っております。

当第3四半期連結累計期間は、売上高2,330千円（前年同四半期は8,689千円）を計上しておりますが、主にバイオジェット燃料開発を目的とした研究開発活動により、セグメント損失は161,372千円（前年同四半期はセグメント損失81,007千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は15,561,079千円となり、前連結会計年度末と比較して1,037,688千円の増加となりました。

負債は、未払金等が増加したこと等により、前連結会計年度末から246,619千円増加し、2,068,610千円となりました。

純資産は、前連結会計年度末から791,068千円増加し、13,492,468千円となりました。この結果、自己資本比率は86.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間までの業績等を踏まえ、平成27年11月13日付「平成27年9月期決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表しました連結業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、  
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)  
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)  
等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第3四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる損益に与える影響はありません。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

連結子会社である八重山殖産株式会社は、藻類生産設備に係る有形固定資産の減価償却方法については、従来、定率法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

この変更は、同社はユーグレナを中心とした藻類生産設備を有する生産工場であり、ユーグレナ市場の成長に伴い、ユーグレナの安定した生産が見込まれる状況になったことを受け、償却方法を検討した結果、定率法から定額法に変更することが設備の使用実態をより適切に反映するものと判断いたしました。

この変更により、従来の方法に比べて当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ12,257千円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,221,236	6,498,422
受取手形及び売掛金	698,431	1,174,669
有価証券	573,236	2,620,301
商品及び製品	560,513	642,994
仕掛品	32,155	64,125
原材料及び貯蔵品	213,583	212,904
繰延税金資産	61,234	95,592
その他	247,163	280,641
貸倒引当金	△2,369	△4,042
流動資産合計	8,605,186	11,585,609
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	835,182	866,267
機械装置及び運搬具	280,107	348,158
工具、器具及び備品	141,715	166,830
土地	929,988	929,988
リース資産	32,455	32,455
建設仮勘定	74,740	443,363
減価償却累計額	△669,942	△774,336
有形固定資産合計	1,624,246	2,012,726
無形固定資産		
のれん	1,121,146	777,438
その他	53,828	531,396
無形固定資産合計	1,174,974	1,308,835
投資その他の資産		
投資有価証券	2,968,539	488,982
差入保証金	68,827	73,994
繰延税金資産	39,962	44,264
その他	41,654	46,666
投資その他の資産合計	3,118,983	653,907
固定資産合計	5,918,204	3,975,469
資産合計	14,523,390	15,561,079

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	239,702	344,000
短期借入金	253,643	53,430
未払金	388,445	789,936
リース債務	5,464	4,485
未払法人税等	308,979	236,514
繰延税金負債	10,449	—
賞与引当金	13,400	14,813
その他	173,205	122,256
流動負債合計	1,393,290	1,565,438
固定負債		
長期借入金	72,120	67,364
リース債務	7,934	4,718
退職給付に係る負債	9,955	10,634
資産除去債務	45,262	49,344
繰延税金負債	293,271	370,955
その他	156	155
固定負債合計	428,700	503,172
負債合計	1,821,991	2,068,610
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,826,343	4,862,070
資本剰余金	6,649,733	6,685,460
利益剰余金	1,417,617	2,169,421
自己株式	△231,378	△231,378
株主資本合計	12,662,315	13,485,573
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,045	4,106
為替換算調整勘定	△5,156	△16,396
その他の包括利益累計額合計	△1,110	△12,290
新株予約権	13,212	15,360
非支配株主持分	26,982	3,825
純資産合計	12,701,399	13,492,468
負債純資産合計	14,523,390	15,561,079

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)
売上高	4,124,316	8,181,948
売上原価	1,366,749	2,190,156
売上総利益	2,757,566	5,991,792
販売費及び一般管理費	2,434,051	5,185,941
営業利益	323,515	805,851
営業外収益		
受取利息	24,463	22,190
助成金収入	132,692	133,503
保険解約返戻金	7,560	—
受取手数料	15,610	24,057
持分法による投資利益	—	20,419
その他	14,446	17,659
営業外収益合計	194,773	217,830
営業外費用		
支払利息	506	1,913
持分法による投資損失	3,514	—
株式交付費	196	387
為替差損	—	1,173
その他	660	531
営業外費用合計	4,877	4,005
経常利益	513,410	1,019,675
特別利益		
固定資産売却益	322	—
負ののれん発生益	3,503	—
新株予約権戻入益	135	54
特別利益合計	3,961	54
税金等調整前四半期純利益	517,372	1,019,729
法人税、住民税及び事業税	225,923	401,129
法人税等調整額	△25,074	△115,156
法人税等合計	200,849	285,972
四半期純利益	316,523	733,757
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4,840	△18,047
親会社株主に帰属する四半期純利益	321,364	751,804



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益	316,523	733,757
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13,993	60
為替換算調整勘定	△958	△16,350
その他の包括利益合計	13,034	△16,289
四半期包括利益	329,558	717,467
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	334,661	740,624
非支配株主に係る四半期包括利益	△5,103	△23,157

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年10月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
	ヘルスケア事業	エネルギー・ 環境事業			
売上高					
外部顧客への売上高	4,115,626	8,689	4,124,316	—	4,124,316
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,115,626	8,689	4,124,316	—	4,124,316
セグメント利益又は損失(△)	811,930	△81,007	730,922	△407,407	323,515

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△407,407千円は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「ヘルスケア事業」セグメントにおいて、株式会社ユーキ及び株式会社アート・コーポレーションを平成27年5月1日付で子会社化いたしました。当該事象によるのれんの増加額は、654,657千円であります。なお、のれんの金額は取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年10月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
	ヘルスケア事業	エネルギー・ 環境事業			
売上高					
外部顧客への売上高	8,179,618	2,330	8,181,948	—	8,181,948
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	8,179,618	2,330	8,181,948	—	8,181,948
セグメント利益又は損失(△)	1,458,849	△161,372	1,297,477	△491,626	805,851

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△491,626千円は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

ヘルスケア事業において、前連結会計年度に株式会社ユーグレナ・アート、及び株式会社エポラの株式取得にともない暫定的に算出されたのれん1,123,544千円を計上していましたが、取得原価の配分が完了し、841,942千円に変動しております。